

令和5年度看護師職能委員Ⅱ交流会を開催いたしました

開催日：令和5年9月30日（土）10：00～12：00

皆様には、日頃より看護師職能委員会Ⅱ活動にご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度の看護師職能委員Ⅱ交流会は、9月30日に県内6支部の委員、本部の担当常務理事、職能委員4名の計11名の参加のもと、対面で開催いたしました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため書面およびZoomでの開催となりましたので、久々に皆さんとお会いすることができました。

「人々が住み慣れた地域で暮らすために 私達の役割を語ろう」をテーマに、病院、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム等に勤務する看護職それぞれの立場で経験や思いを語り合いました。地域の中で医療と生活の場をつなぐ看護職は、地域の多職種と連携し「看護の専門性」を発揮し、生活を支えての視点で見て考えることが必要になります。

施設等では、看護職と介護職が協働の力を発揮するために学習会の開催や、介護職の喀痰吸引研修に参加の機会を作り組織全体のケア力をあげていること。訪問看護ステーションでは、利用者、ご家族の思いを大切に、関わる全ての職種が情報を確実に共有し思いが変わった時も柔軟に、対応できるように心がけていること。日々、利用者や家族の思いや在宅での生活を考え、悩み、試行錯誤しながら、対応している様子が伺えました。病院から地域の施設や訪問看護ステーションに出向し、退院後の生活や多職種の連携を知ることで、地域包括ケアの視点をもち退院調整もより円滑になる等、活発な意見交換ができました。

「尊厳のある看取り」を考えた意見交換では、家族の死を受け入れる気持ちの準備が大切なこと、そのための支援の工夫や決めたことが揺らいだ時には、何度でも考え直していいことを伝え、支えていきたい。地域によっては、訪問診療の体制が十分とは言えない場所もあり、地域の特性にあった対応の工夫をしていること等、互いに新たな情報を得る機会になりました。

看護師不足の厳しい職場環境の中、新型コロナウイルス感染症は5類に移行されましたが、高齢者施設等ではクラスターの報告も耳にします。感染対策に余念のない毎日の業務、災害発生等への危機管理体制など気の休まる時はありません。高齢化社会を支える職能として、利用者や家族の思いに耳を傾け、知恵や工夫を活かしていきましょう。



私たちの役割について活発に意見交換をしました

